

別記様式 1

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第2回「(仮称)子ども図書館」基本構想策定市民懇話会
担当部課名	教育委員会事務局教育部 中央図書館
会議の開催日時	平成28年12月13日(火)午後1時30分～4時00分
会議の開催場所	磐田市立豊田図書館 2階AVホール
出席者(職・氏名)	委員：鈴木正善、山中光枝、米田俊彦、若井まち子 村松真利江、鈴木真代、林 文香、鈴井ひろみ 事務局等 中央図書館：伊藤八重子中央図書館長、伊東直久主幹 永田幸義豊田図書館長、横井暁子主任 子育て支援課：高比良紀恵子 子育て支援課長 伊藤修一 子育て支援G長、大石 優 主事 建築住宅課：杉浦 輝 技師 (株)都市環境設計：設計部企画課課長 田戸義彦(敬称略)
議 題	1 報告事項(事務局から報告) ・一般利用者からの意見について ・中学校との意見交換について ・中学生及び高校生の意見について ・視察の報告 2 ゾーニングについて 3 その他
配付資料等の件名	・豊田図書館利用者から寄せられた意見 ・中学校司書教諭との懇談内容 ・中学生のアンケート結果 ・高校生のアンケート結果 ・現況施設図面 ・ゾーニング案

概

要

1 意見交換

(委員からの意見)

- ・子ども図書館の名称から、大人が本を借りられないのか、子ども連れでないと行けないのかなど、不安を感じずという意見を聞く。図書館は年代による垣根は無く、大人への配慮を検討すること。
- ・子育て相談窓口を設けることについての担当課の考え方と公共ルールを学ぶ場についての考えを。
- ・配置されるスタッフの資質や対応が重要であること。
- ・図書館は静かに過ごすことを学ぶ場所、元気に遊ぶことや飲食は別の場所として我慢させる方が良い。
- ・年配者も気軽に行けるよう検討してほしい。
- ・図書館、子育て支援施設は共に目的意識が明確だが、公園や先日視察した施設は目的が多様と感じる。
まずそこに行き、ついでに相談してみた、という施設が良いのでは。

(事務局から説明)

支援センターは職員と利用者、また利用者同士が交流し、つながりを作っていくが、これに加われない保護者もいる。住所氏名を記入して利用するため、様子だけを見て帰ることも気を遣う。図書館は誰でも抵抗なく足を運べ、本を借りなくても何も言われたい、利用しやすいという点が支援センターとの違い。

支援センターは保育士や幼稚園教諭が中心の配置で他の専門職は巡回相談。今回の計画では、一か所で専門的な相談ができるような職員配置をしていきたい。

公共ルールの考え方としては、親子が普通の声で自然に会話できるような雰囲気を中心にしたい。他の利用者に迷惑となるような騒ぎ方を良しとすることは考えていない。

(委員からの意見)

- ・年代や用途を限定する場所を設けると、特定の中高生や母親たちのたまり場となり、他の利用者が使いにくくなる恐れがあり、ルールを考慮しておく必要がある。
- ・子育てが一段落した大人が足を運びにくい場所となっ
てはいけない。
- ・支援センターに行かない人が図書館に行くか？という
事について、支援センターの受付や他の母親との交流
が苦手な人もいる。図書館は利用しやすく拘束感が少
ないことが良い。
- ・学習室やキャレルは中央でも可能、漫画やアニメ原作、
誰でも読みやすい本ばかりでは書架は荒れる。読める
子どもを育てることが大切。
- ・知識を得る場所として様々な人が来て学び、前進する
糧となるものを見つける場所であることが図書館の基
本。色々な人に対応できる図書館であって欲しい。
- ・飲食は本と隔てた場所に。皆で使うものは大切に扱う
ことを大人が率先して教えなければならない。
- ・図書館は教育機関であることを忘れてはならない。図
書館を取り巻く人たちの知恵で解決せねばならない

(事務局から説明)

色々な方に利用して欲しい。これまで図書館に関心の
無かった人にも足を運んでもらえる雰囲気をつくり、
本を選ぶうちにその人自身が成長してもらえるような
理想を持っている。教育施設としての役割は大事だが、
あまりにも固いイメージは払拭したい。特に中高生向
けの図書の配置は難しいが検討していく。

(委員からの意見)

- ・図書館事業として、中学生による未就学児向けの読み
聞かせはどうか。中学生の保護者の関心も高まる。

- ・図書館にくるのが難しい幼稚園や保育園にはバス送迎を検討してはどうか。後の家族利用も期待できる。

(事務局から説明)

子育て支援センターに出向く母親は、自分の子育てへのねぎらいの言葉を求めている。気持ちが行き詰った母親が安らぎを得て、前向きに元気になれる場所になればよい。傍らにおもちゃや本、人形劇や読み聞かせがある空間で、本を借りるのは次の段階、子育て中の母親たちの現状をご理解いただきたい。

(委員からの意見)

- ・困っている母親たちの実情がよく理解できた。その点に向かって一点突破で進めばきっと良いものができると確信する。中高生は自らの考えでどこにでも行けるのだから。

視察報告について

(設計士から説明)

図書館は子育て支援との相性が良いと考える。田原市中央図書館の児童とYAコーナーの広さは豊田図書館に近く、新しい施設をイメージしやすいと考えた。

(視察した委員の意見)

- ・内部が見えるガラス面が多く、施設入口の窓には通路側に向け絵本が配置してある。時期的に高校生が多数いたが騒がしくはなく、ルールが守られている印象。複合施設であり、ここに来れば何か出来る、ここに来れば友達にも会えるというスペースとなっていると感じた。
- 情報が氾濫している現代、さまざまな情報の本を多岐に渡って配置し、子どもたちがそこで調べたいと思わせる本が必要。

・後日、土曜日に訪問したが親子連れには会えなかった。アプローチがガラス張りで季節に合わせた絵本が面出しされていた。中央カウンター背後に坪庭、外光が入り司書は気持ちの良いカウンターワークができる環境。車いす利用者のための配慮も手厚く、大人が使う幼児を乗せるカートも配置されていた。

高校生から年配の方までゆったりと過ごし、憩いの場であると感じた。中高生が静かに過ごしていたことから、成熟した図書館だと感じた。

設備面では乳幼児連れの保護者や小学生に配慮され、光が差す坪庭には感激した。

・曲線の多さと自然光がたっぷりと入る造りで、箱を感じさせない。色使いが豊かで心が暖まる。

普通の会話であれば許される雰囲気、豊田図書館との違いを感じる。

・児童コーナーの曲線のテーブルは特注か。

(設計士から説明)

家具全般は私が設計したものです。既製品は一部の椅子のみ。

(委員からの意見)

・いくつかの施設をつなげた複合施設であった。豊田も同じように相乗効果が働く動線を作り出すことが課題。

ゾーニングについて

(事務局から説明)

各部屋の活用法や書架配置案を提案

(委員からの意見)

・現展示室の改修後、職員配置は考えているか、特殊な場所になってしまわないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現展示室は閉鎖的な空間であり、くつろげるか疑問、中高生の学習や展示に適していると考える。 ・ 現展示室の壁を一部撤去することは可能か。 ・ 現応接室と事務室の転用は可能か。 <p>(事務局から説明)</p> <p>現展示室に職員常駐は考えていない。日中は大人の利用、夕方や土日は中高生の利用を想定している。雑誌や良質な漫画も配置し、自由に会話できる場所と考えている。中庭に面した個所は開放し明るい空間にしたい。展示室や現応接室、事務室は耐震壁、設備機器の中核部分で手が入れない。</p> <p>(委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出された意見を考慮し、第3回目に提示すること。 <p>その他</p> <p>(事務局から説明)</p> <p>次回は2月7日開催を予定、基本構想の完成形に近いものになる、ゾーニングは幾つか案を出し検討する。次回開催の事前に資料を送付する予定。第3回の翌日の図書館協議会に報告していく予定。</p>
備 考	